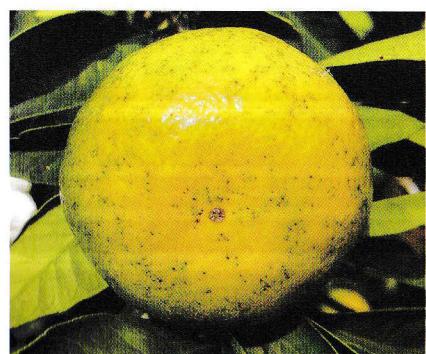


雨前に殺菌剤、  
雨後に殺虫剤が原則

兼業農家でしたが5年前に早期退職し、果樹の苗木を2000本植え、カニキツ2・5ha、クリなど0・5ha、計3haの専業農家になりました。近年温暖化の影響が顕著で、わが家でも昨年は7月の西日本豪雨で350mm、9月の台風24号で200mm以上の雨が降りました。温州ミカンでは、特に黒点病や浮き皮、貯蔵性の低下などが問題になっています。

黒点病も雨前散布が原則ですが、基本的な防除間隔は、果実の肥大期（6～7月）は積算雨量200mm、成熟期（8月）は250mm、もしくは雨が



秋雨で感染した後期黒点（小黒点）病の被害果

## 流れるよつな雨なら雨後散布

大分・小原誠

黒点病が毎年出ます。雨の前に薬剤散布したほうがいいのはわかってるんだけど、なかなか難しい……。毎回の前じゃなきやだめなのかな？



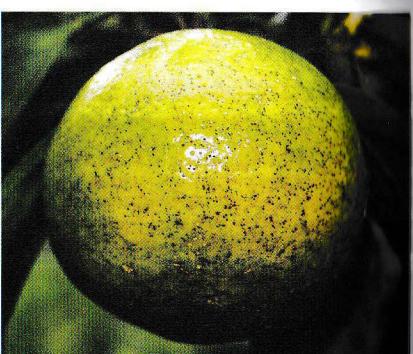
### ミカンの黒点病



温水治療の様子

があることがわかりました。  
3年間で約300本に温水処置を施しました。今のところ再発しているところはありません。これからも、どんどん処理本数を増やしていくたいです。まだまだ白紋羽病の温水治療は新しい技術です。今後も改良を加え、施用効果などを継続的に確認していくことを考えています。

（栃木県宇都宮市）



梅雨時期（前期）の典型的な黒点病被害果（写真提供：大分農林水研・植原稔、左も）

## イチゴ・メロン 花粉交配のご用命は！

# みつばち

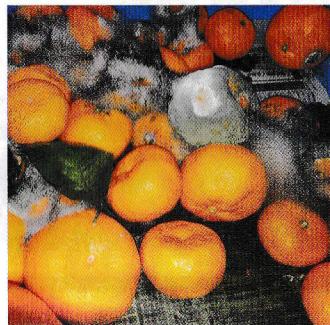


みつばちと  
養蜂具

カタログ進呈

まむろようほうじょう  
（有）間室養蜂場  
〒355-0134埼玉県比企郡吉見町大串1257の3  
TEL 0493(54)2381 FAX 0493(54)0093  
<http://www.mamuro-yoho.com> [info@mamuro-yoho.com](mailto:info@mamuro-yoho.com)

「朝代農業」と明記の上、  
ハガキ又はFAX又はホームページ内のカタログ請求  
画面へ、ご住所、お名前と  
お電話番号を記入の上、  
当社へお送り下さい。



黒かび病の被害。点検や除去が遅れると5段積みのコンテナの下まで1カ月で腐敗する

を逃さないことが重要で、わが家では自作の雨量計を使い、適期を見極めます（2013年6月号参照）。1回目は5月下旬～6月上旬、マンゼブ剤600倍にマシン油（100～150倍）を加えて耐雨性を300mmに高めます。積算雨量が200mmになった時点で、週間天気予報を見て、じめじめと雨が続きそうなら雨前、夏の夕立や台風、梅雨末期の大霖予想なら雨後に散布します。先に述べたように、じめじめした雨が続き、雨に濡れた状態が一定以上あると黒点病は感染するからです。一方、流れるような雨であれ

ヤマホの強力キリナシ3頭口ノズルで薬剤散布中の筆者。通常ノズルの1.5倍、1分で12ℓの薬剤を散布できる



### 夕立や台風などの大雨では感染しない

黒点病の感染には、樹が雨に濡れている状態が、夏期でも12時間以上必要です。たとえ薬剤の残効が切れても、晴天の日には感染しません。また、雨が降ったとしても、流れるような雨シ3頭口ノズルも使っています。

2回目の散布は、6月末～7月初めにマンゼブ剤600倍+マシン油500倍。梅雨明けから8月末まで防除は行ないません。梅雨明け後は夕立や台風以外に雨がないので、散布間隔の1カ月が過ぎても発病しないからです。

### 後期黒点にも要注意

後期黒点（小黒点）は秋雨で感染します。従来は気温が低下する10月には発生しないとされていましたが、温暖化と秋雨でそれ以降にも発生するようになっています。梅雨期の黒点と症状は異なり、特に9月末から10月の感染は緑斑が残るだけなので、着色遅延だと思い込んでしまう農家も多いようです。

3回目の防除は通常8月下旬に、マンゼブ剤600倍をダニ剤などと混用

をを目指すためにこういった指導をしますが、おはら果樹園では黒点病の感染の特性と雨の性質を考慮し、マンゼブ剤4回で90点の防除を実施しています。

この特性を踏まえ、わが家では梅雨時期に2回、秋雨時期に2回の防除で毎年黒点病をほとんど出していません。



雨量計。左は筆者の作品、右は一色本店の商品で1980円。一色本店TEL089-922-4141

### 冬期の温暖化で黒かび病が激発

冬期の温暖化で黒かび病が激発行ないません。梅雨明け後は夕立や台風、梅雨末期の大霖予想なら雨後に散布します。先に述べたように、じめじめした雨が続き、雨に濡れた状態が一定以上あると黒点病は感染するからです。一方、流れるような雨であれ

### じめじめ雨なら雨前、大雨なら雨後

梅雨時期の防除は、雨と果実の肥大により薬剤が近い極早生以外に、9月中下旬に散布します。このとき、温州ミカンではマンゼブ剤400倍で防除すること、褐色腐敗病の対策にも労しました。これは本来は貯蔵後半に発生する黒かび病だと、「カンキツの病害虫」（田代暢哉・増井伸一著、全国農村教育協会）を読んで知りました。私は柑橘試験場や普及所で30年以上勤めましたが、専門書や雑誌でも黒かび病を見たが、専門書や雑誌でも黒かび病を見たことがありませんでした。

黒かび病は日本では登録農薬がなく、腐敗した汁や胞子が付くと隣接する果実が次々に腐敗し、大きな問題となっています。今のところ対策は低温貯蔵と感染果実の早期除去しかありません。

（大分県中津市）